

# 全体の可視性と予測的オペレーションの実現 AWS Supply Chain

# AWS Supply Chainの特徴

## Supply Chain 全体の可視化

### 可視化・分析

- ✓ 複数拠点の在庫把握、AIによる在庫リスクアラート
- ✓ 予測に基づく発注（生産）計画、需要予測

### 製造業関連

- ✓ BOM対応、多段（N-Tier）、調達／生産の区別

### サプライヤー対応

- ✓ ESG情報の交換
- ✓ サプライヤー階層の可視化

## スモールスタートし 拡大可能

### すぐに利用開始

- ✓ 数分で起動、半日程度でデータ投入

### 完全従量課金

- ✓ 前払いなしで使った分だけ
- ✓ データ量と機能実行回数による課金

### 後付け可能

- ✓ 既存システムに影響与えない

### 統合が容易

- ✓ シンプルなデータ構造
- ✓ 複数のERPからデータを統合可

## 進化する ソリューション

### 進化のスピード

- ✓ 昨年デビュー以来の機能追加
- ✓ SaaS形態により自動的に進化

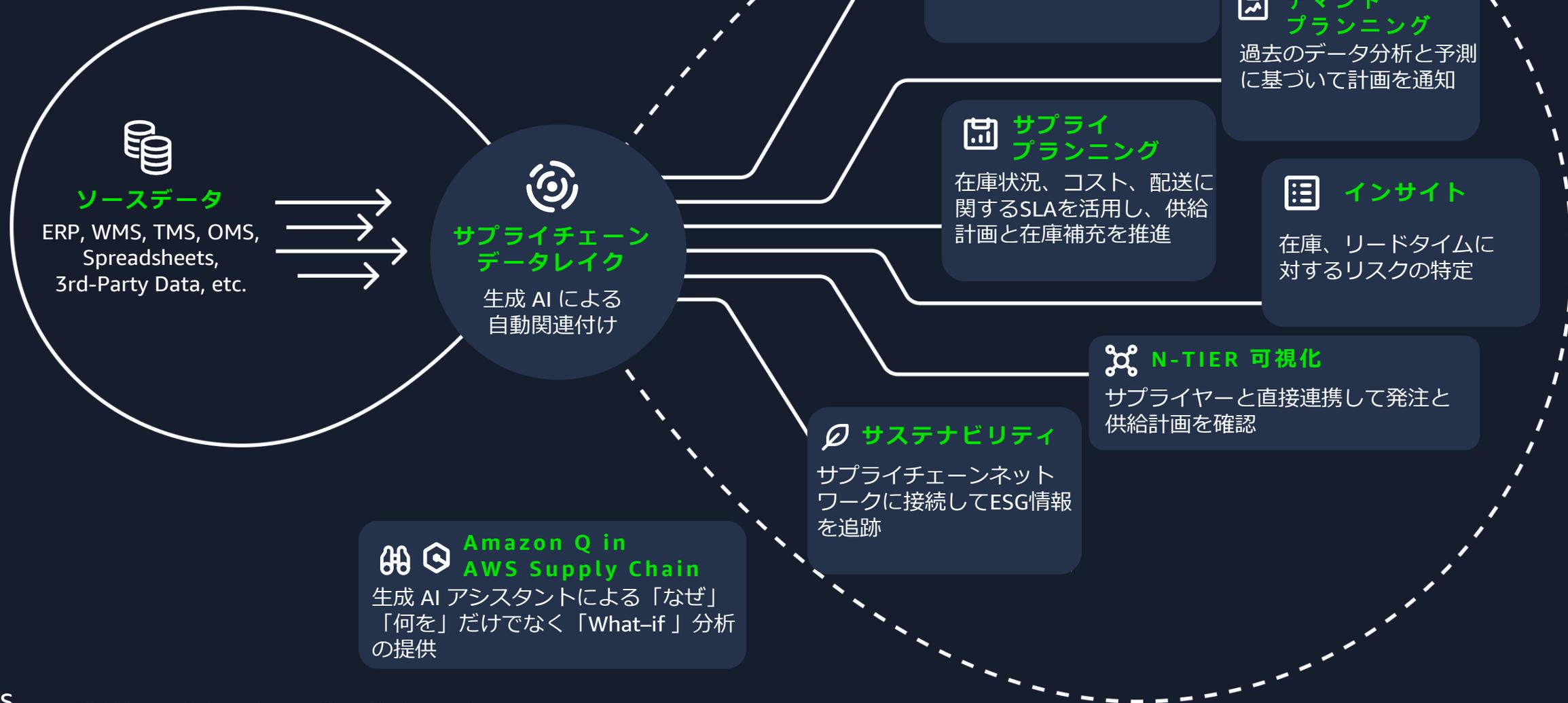
### コラボレーション

- ✓ ワークオーダー（作業指示）
- ✓ ツール上でチャット機能

### 生成 AI の導入

- ✓ データの自動紐付け
- ✓ AI アシスタント（Amazon Q）

# AWS Supply Chain



## 既存システムに外付けで可視化・分析機能を提供

## Amazon で培った機械学習モデルの活用

ソースデータ  
ERP, WMS, TMS, OMS,  
Spreadsheets,  
3rd-Party Data

サプライチェーン  
データレイク  
生成AIによる  
自動関連付け

## サプライヤーとのデータ共有が可能

在庫状況、コスト、配送に  
関するSLAを活用し、供給  
計画と在庫補充を推進

インサイト  
在庫、リードタイムに  
基づくリスクの特定

## 生成 AI アシスタントによる自然言語問い合わせ

Amazon Q in  
Supply Chain  
ワークに接続してESG情報  
を追跡

N-TIER 可視化  
サプライヤーと直接連携して発注と  
供給計画を確認

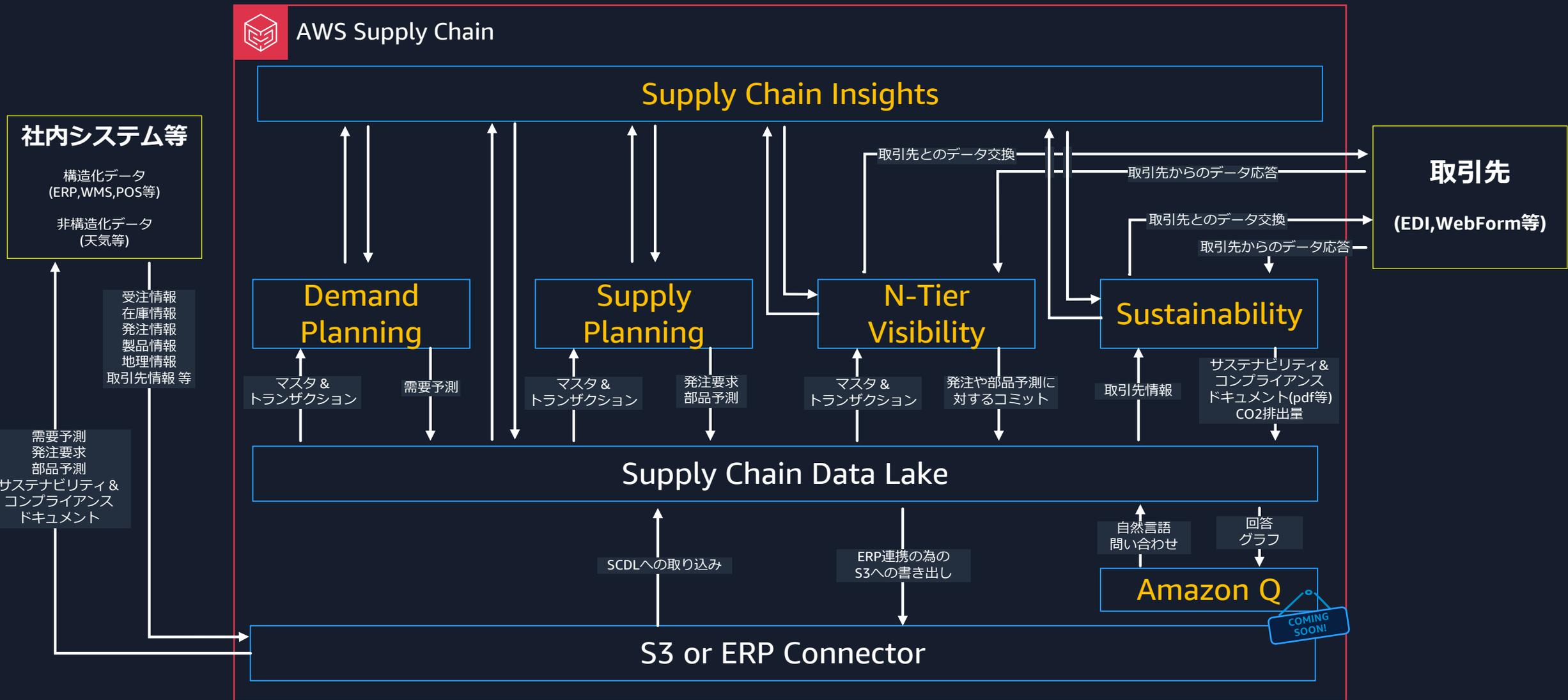
※近日公開予定

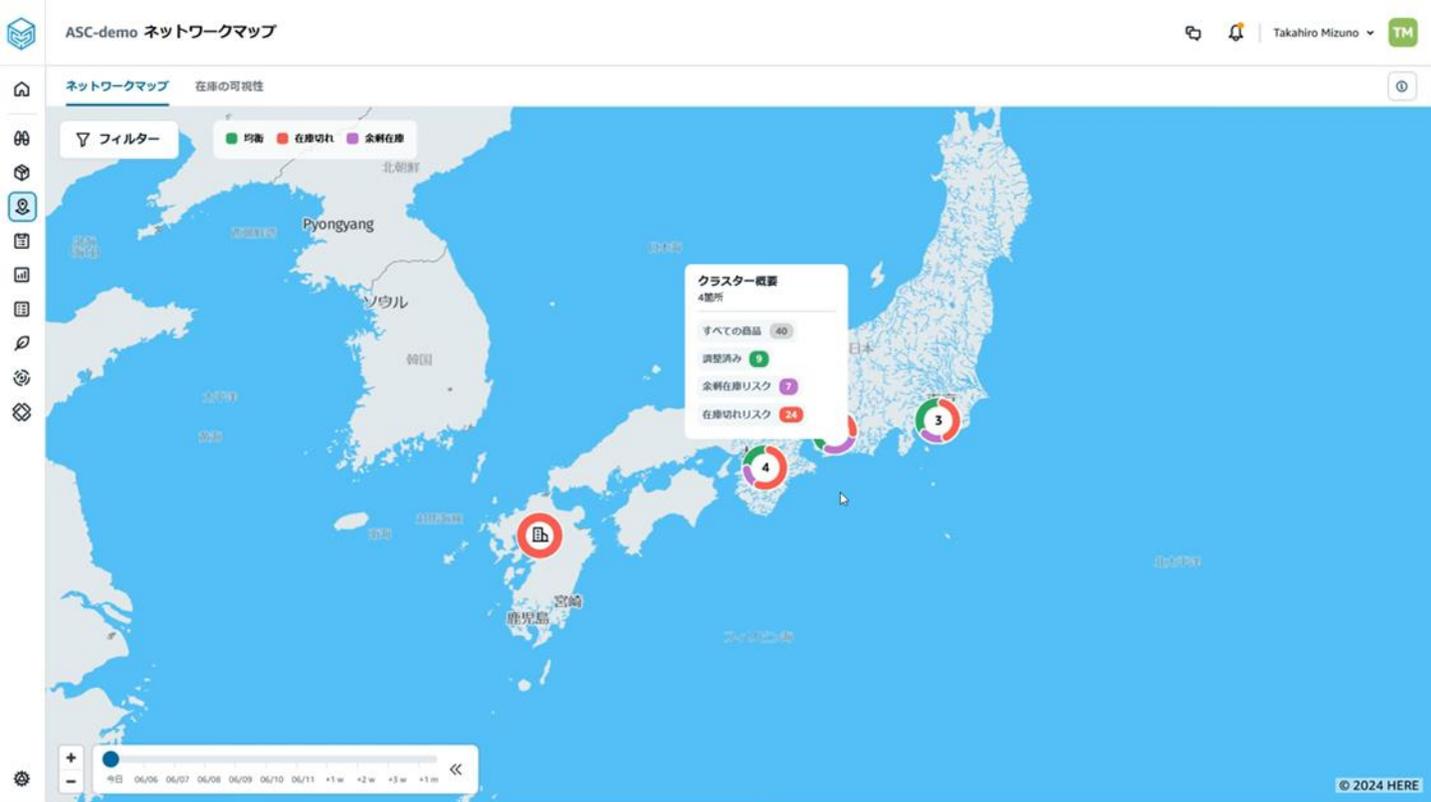
## ライセンス不要、従量課金ですぐに使える

Amazon Q in  
AWS Supply Chain

生成AIによる「何もしない」  
「何もしない」What-if  
の提供

# AWS Supply Chain の機能





# 在庫の可視化

1/6

- ✓ 拠点在庫をマップ上に表示
- ✓ 在庫切れ：赤
- ✓ 過剰在庫：紫
- ✓ 適正在庫：緑

## 解決する課題

- 複数システムに跨る情報を可視化するのにコストと時間が掛かる
- 個別のシステムで確認はできるが、統一されたビューがない

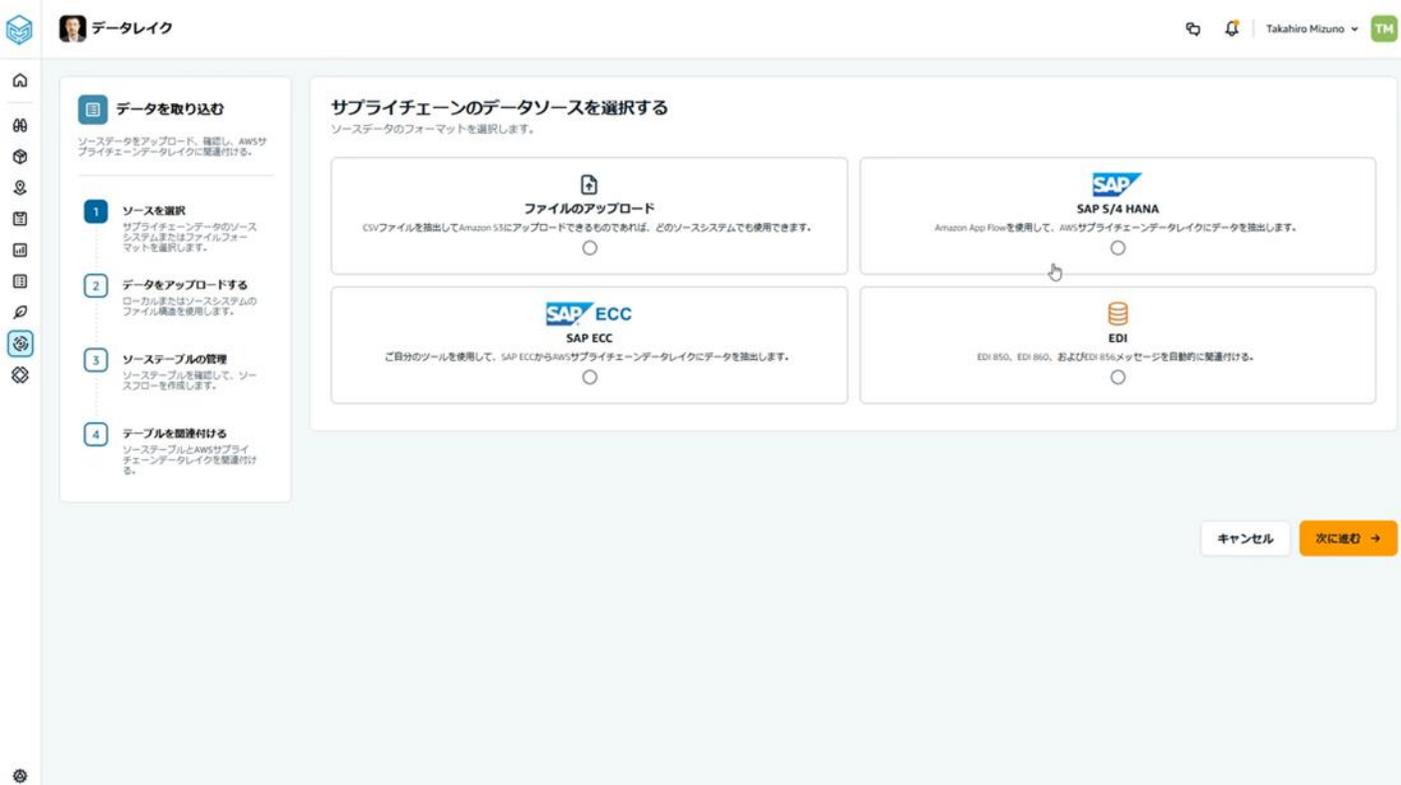
更新日: 6月5日 10:26

フィルター

場所	サイトタイプ	商品	調整済み	在庫切れリスク	過剰在庫リスク
鳥橋FC FwdDC2	フルフィルメントセンター	10	0	10	0
堺FC FwdDC3	フルフィルメントセンター	10	0	10	0
尼崎FC FwdDC4	フルフィルメントセンター	10	6	1	3
多治見FC FwdDC5	フルフィルメントセンター	10	4	3	3
市川FC FwdDC6	フルフィルメントセンター	10	6	2	2
京田辺FC FwdDC7	フルフィルメントセンター	10	3	3	4
青橋FC FwdDC8	フルフィルメントセンター	10	4	2	4







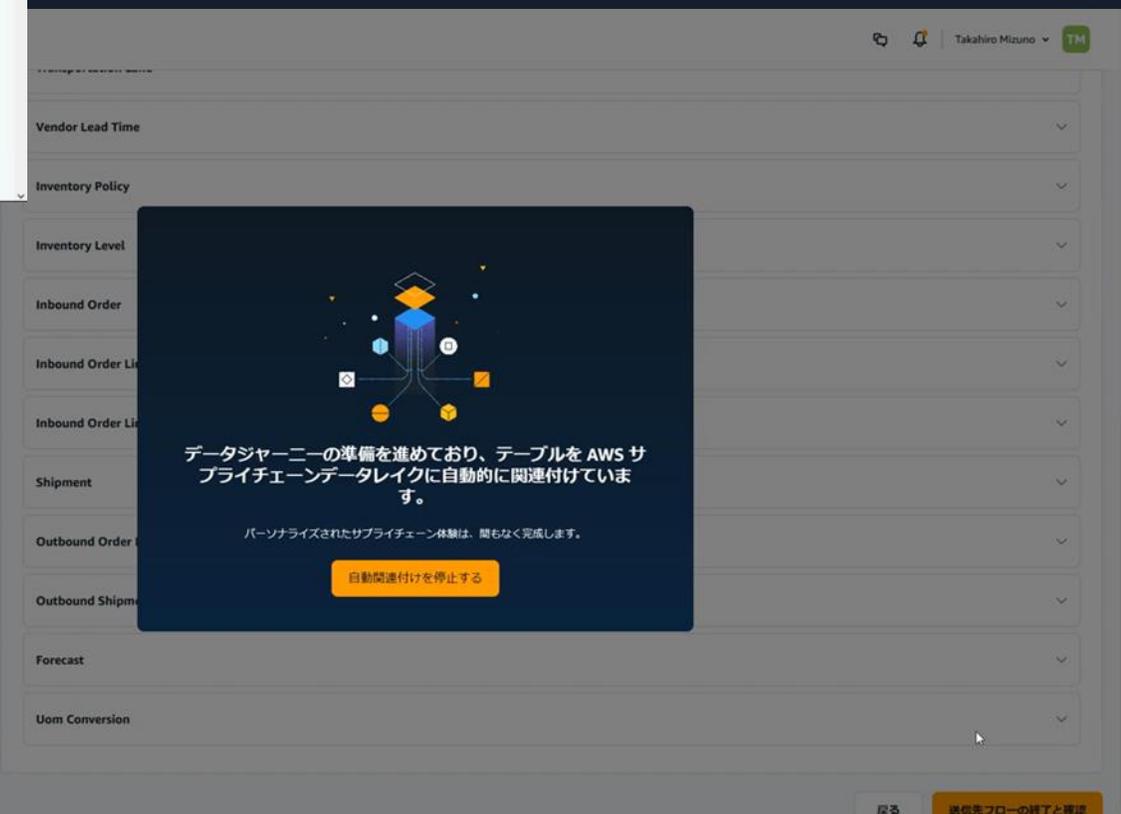
# 自動マッピング

3/6

- ✓ ファイルをアップロードするとテーブルと項目を生成 AI が自動的にマッピング
- ✓ 項目名や順番が違っていてもOK

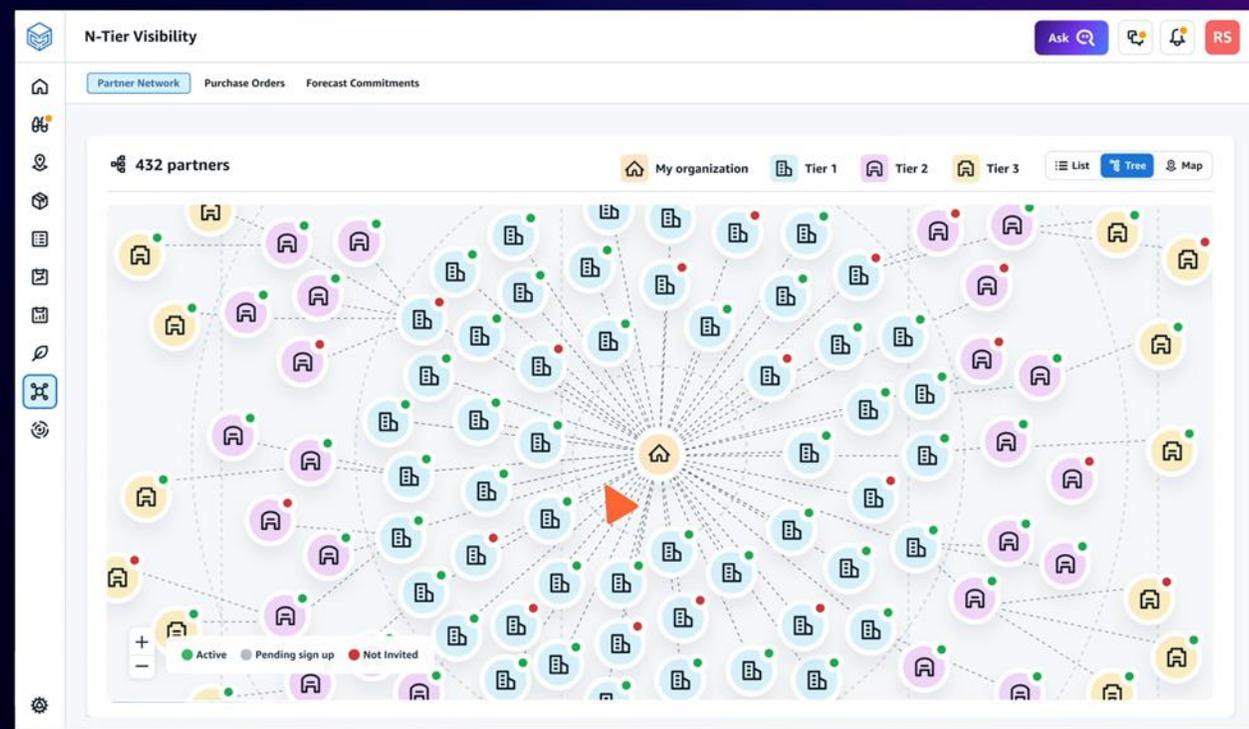
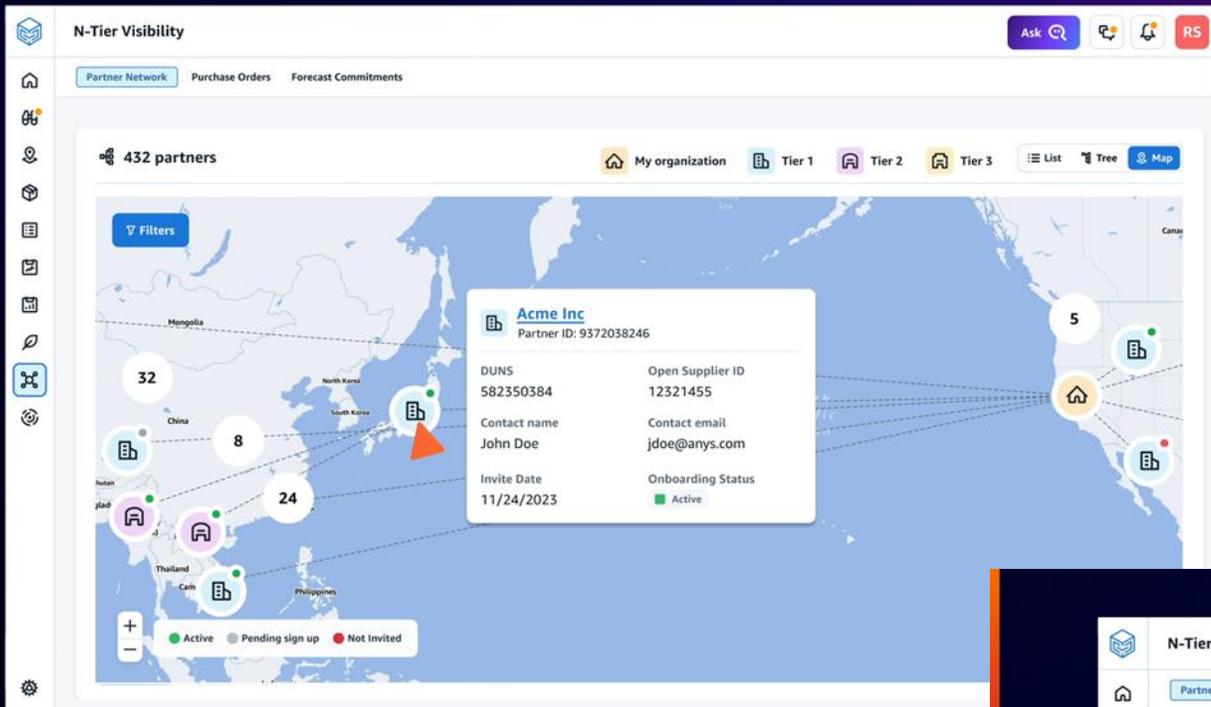
## 解決する課題

- データを連携させて、効果を実感するまでに時間が掛かる
- 今あるデータを使って少し試してみたい



# N-Tier 可視化

- ✓ 複数に広がる外部取引先の可視性とインサイトの向上
- ✓ わずか数ステップで、取引先を招待しコラボレーションと情報共有を改善



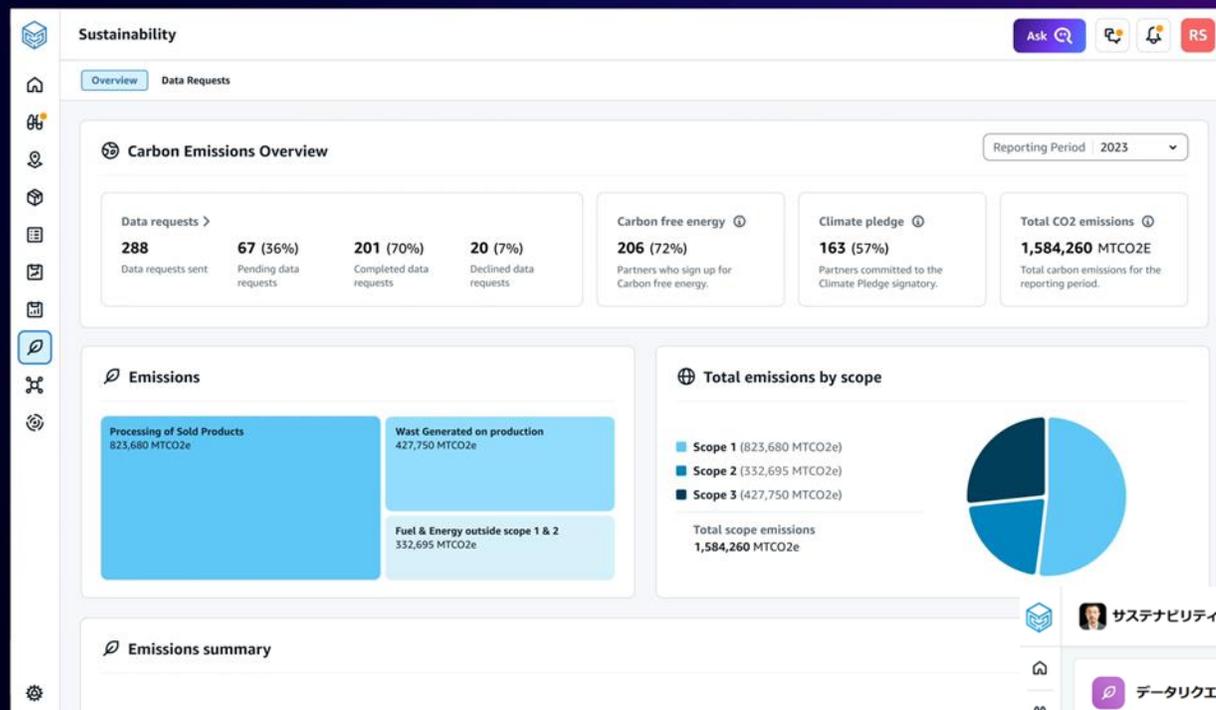
## 解決する課題

- 調達リスクと部品不足がギリギリにならないと分からない
- 外部取引先との情報共有がオフラインの為、システムへの反映が遅れる



# サステナビリティ

- ✓ サプライヤーからの文書やデータセットを安全で効率的に取得する
- ✓ 取得したデータを一元管理し監査可能な記録とする



**データリクエストの作成**

- データリクエストを選択  
送信するデータリクエストを選択し、詳細を追加します。
- パートナーを選択  
リクエストを受け取りたいパートナーを選択します。
- レビューして送信  
選択したパートナーをレビューおよび確認します。

**データリクエストタイプを選択**

データリクエストタイプ: Simple Reporting

**データリクエストオプションを選択**

Simple Reporting

データリクエスト名: | |

日付: YYYY/MM/DD

データリクエストの説明

その他の注意事項(任意)

データリクエスト情報

タスク説明

例えば、表示された入力フィールドにヒ驚の割合を入力してください。テスト証明書をお持ちの場合は、それもアップロードしてください。

ファイルのアップロード (オプション)

ここにファイルをドロップするか、[開く](#) アップロードする。

テンプレートを保存する | キャンセル | 次に進む →

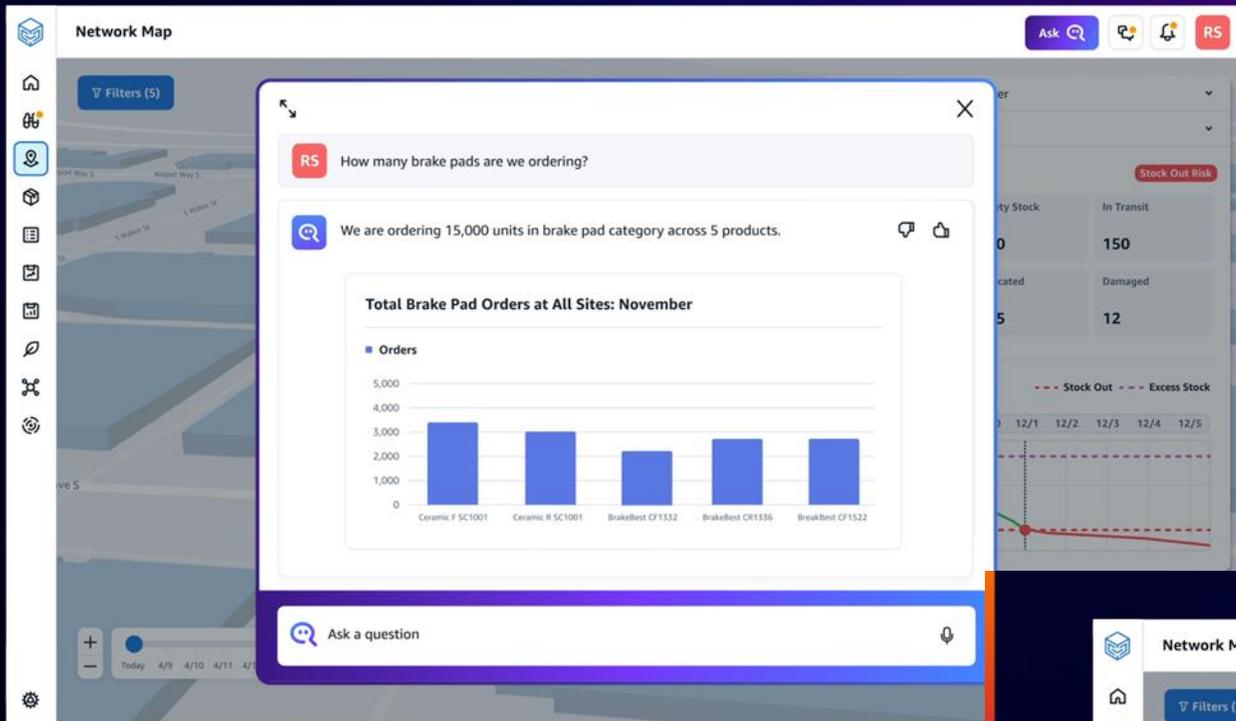
## 解決する課題

- ・ 製品安全性に関する証明書、有害物質のレポート、CO2排出量などのデータをメールで収集している
- ・ 必要な情報が期日通りに集まらない



# 生成 AI アシスタント Amazon Q (近日公開予定)

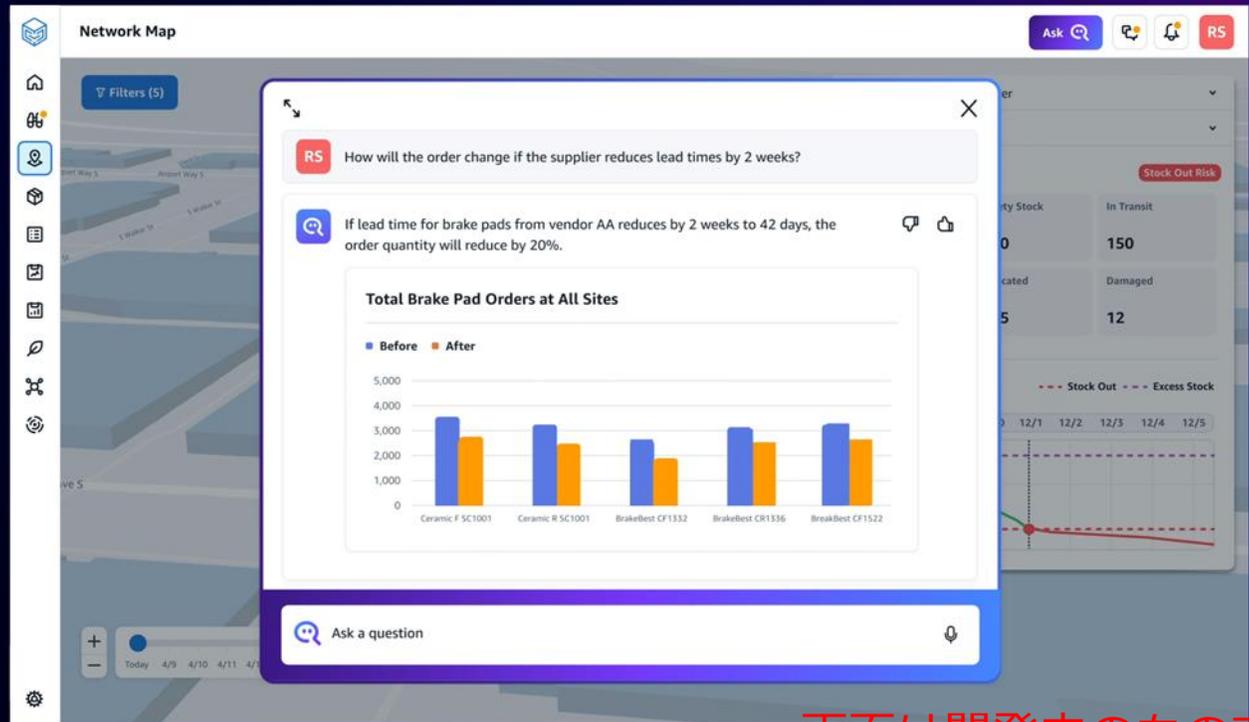
- ✓ AWS Supply Chain 内のデータに対して自然言語で問い合わせ可能
- ✓ 「何を」「なぜ?」「もし~だったら?」に回答を提供



画面は開発中のものです

## 解決する課題

- 思いついた疑問がすぐに分からない
- シミュレーションができない or 時間が掛かる (予測的オペレーション)



画面は開発中のものです





セットアップ手順と技術概要は  
こちらのワークショップをご確認下さい